

令和元年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和2年(2020年) 3月13日
札幌市立真駒内中学校

1 本年度の重点目標

『相手意識』に基づいた教育活動の推進	
1	学ぶ力の育成 ～ 生徒が主体的に学ぶ授業の構築
2	豊かな心の育成～ 道徳教育の推進及び教育相談の充実 ○読書活動の充実～朝読書の通年実施 ○小中連携の拡大～授業体験・見学や教員による交流 ○体力向上 ～日常的な体力向上の取組 ○信頼される学校～積極的な情報発信

2 本年度の経営方針

I	学 習 … 『授業の工夫と家庭学習の習慣化』
II	生 活 … 『どの子にも心の居場所のある学習環境づくり』
III	信頼される学校 … 『チーム学校として、責任ある組織体制の構築』
IV	将来を見据えた学校づくり … 『51年目の再スタートから52年目の飛躍へ』

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	①学ぶ力の育成のため、主体的に学ぶ授業の構築を主とした教育活動の推進が行われている。	B	① 日常生活や授業、諸アンケート等から生徒の実情把握に努め、全教科授業公開等の研修を行い、授業の工夫や改善に取り組んだ。	A	A
	②『信頼される学校』『開かれた学校』を目指し、保護者や地域への情報発信を積極的に行い、組織体制の構築が行われている。	A	② 学校 HP の適宜更新や学校・学年便り等での情報発信を行い、保護者・地域の方々に学校・生徒の姿を知らせた。授業公開の回数等も含め、さらに工夫・改善する。	A	A
	③『読書活動』『体力向上』を目指した学習活動やその他の活動を積極的に行っている。	A	③ 『朝読書』通年実施や『生活リズムチェックシート～運動編～』等新たな取組も成果をあげている。	A	A
	④小中連携について、積極的な取組が行われ、関係小学校と定期的な交流が行われている。	A	④ 小学生の授業体験・授業参観・部活動見学は例年通り実施できたが、交流会等定期的な交流にまでは至らなかった。	A	A

学校関係者評価委員による意見	朝読書の通年実施や教職員による全教科の授業公開研修への取組を高く評価する。また、学校便りやホームページ等での情報発信は、積極的に行われ、家庭・地域・学校との連携を図るべく努力の継続が見られたことについても評価し、今後も継続されることに期待する。 今後も生徒に対し、AIにはできない「読書の楽しみ」を持ち続けるように指導を期待する。
----------------	--

学習指導	①生徒の主体的に学ぶ学習への意欲を高めるため、指導内容や指導方法を工夫改善しながら授業が行われている。	A	① 概ね基礎学力の定着は見られるが、学習に困難を抱える生徒もいる。補習的時間の確保や進んで意見を発言する課題である。	A	A
	②特別の教科道徳の実施に伴い、よりよく生きるために道徳的価値の自覚をもてるまたは理解できるといったねらいを意識した授業実践が行われている。	A	② 道徳科は、指導計画に沿い、ワークシートを中心に個々の見取りや評価方法の研修を中心に授業を行った。2学期以降は、計画・授業共にローテーションで実施した。	A	A
	③新学習指導要領改訂に伴い、学習指導と学習評価の一体化を目指し、妥当性ある学習評価が実施されている。	A	③ 来年度の新学習指導要領改訂に伴い、学習評価・学習指導は、今後も研修が必要である。	A	A
	④調和のとれた教育課程を編成し、確かな学力を身に付けさせる取組が行われている。	A	④ 生徒が主体的に学ぶ授業の構築を図り、グループワーク・ICTの活用・学習課題の工夫を図り、「学ぶ力」育成の取組を行った。また、TT指導、学生ボランティアによる補習も実施し、学力の向上を目指した。	A	A

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>基礎学力の定着が見られることや先生方の「わかりやすい授業」に対し、生徒の肯定的な回答が多いことについて高く評価する。 「主体的に学ぶ学習」のための授業構築に関わり、グループワークの活用やチームティーチング指導の実施等、改善策について工夫がされていることについて高く評価する。 また、新学習指導要領改訂に向けて、教職員が更に研修を積んでいくことに期待する。</p>					
<p>分野</p>	<p>評価項目</p>	<p>自己評価</p>		<p>学校関係者評価</p>		
		<p>達成状況</p>	<p>改善の方策</p>		<p>自己評価の適切さ</p>	<p>改善策の適切さ</p>
<p>生徒指導</p>	<p>①生徒理解を基本とした学級集団アセスメント検査(Hyper-QU)の実施や各種相談活動が適切に実施されている。</p>	<p>A</p>	<p>① 生徒アンケートでは85%の生徒は学校生活は楽しいと回答、15%は学校生活や友人関係に対し不安感や不安定さを抱えている現状がある。見守り・声かけや教育相談のより一層の充実を図り安心できる学校づくりを目指す。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>②道徳科を通して、『基本的生活習慣の定着や規範意識を育む指導』『どの子にも心の居場所のある学習環境づくり』が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>② 道徳科の時間を活用し、礼儀や挨拶、きまりの遵守等の基本的生活習慣について規則正しい生活の大切さ等、現代が抱える問題点に応える学習を継続する。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>③規則正しい学校生活を送るための配慮や工夫が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>③ アンケートでは礼儀や挨拶・言葉遣い等の基本的生活習慣の数値が低くなっている。集団生活や社会性育成のための指導に一層の充実を図る。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>④子どもの変化の気づきや子ども・保護者の話に耳を傾け、初期対応を適切に行うチームとしての組織体制を十分に発揮している。 また、SNS 関係や熊・不審者情報などの生徒指導に関する情報が適切に発信されている。</p>	<p>A</p>	<p>④ 情報共有を常とし、報告・連絡・相談を中心とした組織体制で対応した。必要に応じた緊急保護者メールの活用等、より一層の危機管理体制の整備を図る。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>「学校生活が楽しい」と「いじめのない学校生活を送っている」の生徒回答が85パーセント、90パーセントの数字があり、組織体制を生かして生徒への指導、目配りがなされていることが窺われることで、高く評価する。 道徳科の授業を活用して、礼儀や挨拶、基本的生活習慣の確立がされていることを評価する。 さらに「成長を感じられる」「肯定感を感じられる」など、生徒一人一人の存在を学校全体で感じ取っていくことに今後も期待する。</p>					
<p>その他</p>	<p>①テスト計画表や家庭学習を含む学習習慣を身に付けさせ、『手帳の有効活用』ができる取組や工夫が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>① 各学年定期テスト前のテスト計画表や日常的に『手帳的なもの』の有効活用を目指し計画的な学習への取組を目指しているが、定着については未だ課題が残る。今後も家庭の理解と協力を得、より一層の工夫・努力を行っていく必要がある。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>②挨拶や正しい言葉遣いなどの指導が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>② 朝・帰りの挨拶、廊下での挨拶、職員室入室時の対応、部活動生徒の挨拶の等、多くの生徒は中学生らしい言葉遣いや明るく元気な挨拶ができています。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>③相手をいたわり、思いやる心を育てる取組、『相手意識』に基づいた教育活動が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>③ アンケートでは、多くの生徒は、自分は仲間を大切に、いじめの無い安心できる生活を送っていると回答している。 良好な人間関係の構築に向けて、スクールカウンセラーも含めた学校全体での相談体制づくりを整える。</p>		<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>自己管理に加えて、「手帳の有効活用」を通し、日常の生きるツールや大人に向けてのビジネスツールの一つとして、活用につなげられることを期待する。 学校全体として、良好な学校環境ができていること、学校としての評価・改善策は妥当であると判断する。さらなる発展・向上に期待する。</p>					